教育ネットワークセンター年報，2010，10，123-128（研究報告）

課題名　知的障害者の生涯学習支援に関する研究
―― オープンカレッジの試みを通して ――

研究代表者名　田中　真理　（人間発達臨床科学講座）

研究組織等　川住　隆一　（人間発達臨床科学講座）
加藤　守道　（人間形成論講座）
谷口　和也　（教授学習科学講座）
石井山　竜平　（成人継続教育論講座）
鈴木　恵太　（人間発達研究コース）
滝吉　美知香　（人間発達研究コース）
笹原　未来　（人間発達研究コース）
野崎　義和　（人間発達研究コース）
横田　晋務　（人間発達研究コース）
鈴木　　徹　（人間発達研究コース）
杉山　　章　（人間発達研究コース）
岡野　　智　（人間発達研究コース）
新谷　千尋　（人間発達研究コース）
新村　享子　（人間発達研究コース）

研究目的

地域社会に対する貢献の一環として、オープンカレッジを通した知的障害者への生涯学習支援が試みられるようになってきている。このような取り組みに関する研究は、欧米の大学においては数多く報告されているものの、本邦においては一部の大学に限られている。知的障害者を対象としたオープンカレッジのねらいとしては、第 1 に、知的障害者が学習を通して社会人としての生活や個人の生活が豊かになること、第 2 に、当事者同士の交流が促され友人関係が広がることがあげられている。

われわれもこのような取り組みの重要性を認識し、2006 年度より「杜のまなびや」という講座名での取り組みを開始した（川住他，2007，2008；大内他，2007；鈴木他，2007；杉山他，2007；杉山他，2009）。本講座においては、上述のねらいの他に独自の観点として、知的障害者が大学で学ぶことを重視する、すなわち、講座を通して彼らが学ぶことの楽しみを見出すことや新たな知識を得ることだけではなく、大学生と知識・体験を共有し討論の中から様々な事に気付くこと、また教員・学生・院生が専門性を問われる場面に立ち会うことも重視したいと考えている。

そこで、(1)知的障害者の学習ニーズ、(2)東北大学大学院教育学研究科の専門性を生かしたオープンカレッジの学習プログラム内容と援助方略、(3)受講者である学習者（知的障害者）と共同学習者（学部学生）の“学び”に対する認識の変容、について、本講座の開始時より検討を行ってきた。しかし、(2)についてはその内実が具体的に実証されていないこと、および(3)については長期間にわたる変容が把握されていないことを課題として挙げることができる。

これらの残された課題に対して、①オープンカレッジに継続参加した知的障害者の「学びへのイメージ」について、講座前後に行なわれてきた面接調査をもとに検討すること、②オープンカレッジにおける知的障害者の生涯学習支援の意義について、受講生の“学び”に対する評価や受講生の家族を対象とした調査をもとに検討すること、を本研究の目的とした。

研究経過

(1) 研究スタッフは、上記5名の教員および10名の発達障害学を専攻する大学院生である。運営には、主として川住・田中と発達障害学専攻の大学院生が携わり、講座の講師は、加藤・谷口・石井山が務めた。

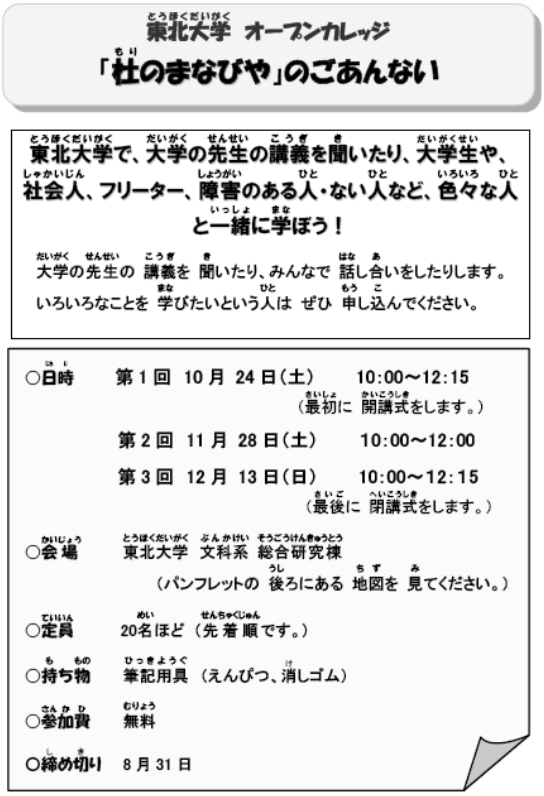
(2)当オープンカレッジの名称はこれまでと同様「東北大学オープンカレッジ『杜のまなびや』」とし、講座は10月24日（土）、11月28日（土）、12月13日（日）の3日間実施した。講座は教育学研究科内の教室で行われた。講師および講義題目は、次の通りである。

1回目（10月）谷口和也講師　「からだを使って考えよう」
2回目（11月）加藤守通講師　「五感で学ぶわざの世界」
3回目（12月）石井山竜平講師　「自分の生きざまを語る/他者の生きざまを聞く2」

(3)講座の対象として、学習者は言葉による会話とひらがなによる読み書きが可能な18歳以上の者10～15名、共同学習者は本講座に関心のある学部学生・大学院生10名程度とすることにした。また、3回を通して参加可能であることが望ましいとした。パンフレット（Fig.1）を作成した後、昨年の受講者を中心に受講者を募った結果、学習者12名（一般・福祉就労者で、2名は本年度初めての受講）および共同学習者12名（教育学研究科大学院生1名、教育情報大学院生1名、教育学部生10名）からの参加希望が得られた。

(4)研究の目的をふまえ、学習者に対しては事前・事後の面接を実施し、また、各講座受講後の感想を把握するため、各回終了時には出席した学習者・共同学習者全員に対しアンケート調査を実施した。

(5)各回とも講義資料を作成した。資料は、講師の原案を踏まえて、講師と運営スタッフが話し合いを重ね、パワーポイント資料へと作り上げていった。また、資料の漢字にはひらがなのルビを付した。授業時には、資料のみならず関連する具体物や映像資料



東北大学 オープンカレッジ

「杜のまなびや」のごあんない

東北大学で、大学の先生の講義を聞いたり、大学生や、社会人、フリーター、障害のある人・ない人など、色々な人と一緒に学ぼう！

大学の先生の 講義を 聞いたり、みんなで 話し合いをしたりします。
いろいろなことを 学びたいという人は ぜひ 申し込んでください。

○日時　第１回　10 月 24 日(土)　10:00～12:15
（最初に 開講式をします。）
第２回　11 月 28 日(土)　10:00～12:00
第３回　12 月 13 日(日)　10:00～12:15
（最後に 閉講式をします。）

○会場　東北大学 文科系 総合研究棟
（パンフレットの 後ろにある 地図を 見てください。）

○定員　20名ほど（先 着 順です。）

○持ち物　筆記用具（えんぴつ、消しゴム）

○参加費　無料

○締め切り　8 月 31 日

＜先生方と講義の紹介＞

第1回　10月24日（土）　谷口 和也 先生
「からだを使って 考えよう」
ゲームを通して 世の中や社会のことがわかります。

第２回　11 月 28 日（土）　加藤 守通 先生
「五感で学ぶわざの世界」
人間の五感が持つ 隠れた力について 考えよう。

第３回　12 月 13 日（日）石井山 竜平 先生
「自分の生きざまを語る／他者の生きざまを聞く２」
同世代の 様々な生きざまにふれながら、
「自分」を とらえ返してみよう。

＜次のような活動を予定しています＞
・講義　（先 生 の 話 を 聞いたり、活動したりします。）
・話し合い　（グループで話し合いをします。）
・まとめ　（話し合ったことを書いたり、発 表 したりします。）
・アンケート　（簡 単 な 質 問に、答えていただきます。）

お申込み・ご質問は、ここまで お願いします。

＜申込先＞
東北大学「杜のまなびや」事務局　田中 研究室
代表：田中 真理
電話：022-795-3741　FAX：022-795-3741
Mail：tanaka@sed.tohoku.ac.jp

＜会場までの 地図とバス＞

『東北大 川内キャンパス・萩ホール前』バス停
図書館横 入口
会場
文科系総合研究棟
ロータリー

＜バス＞
1.【乗車】JR仙台駅より　仙台市営バス（仙台駅 西口　バス乗り場 9番）
『青葉通・工学部経由　動物公園循環』行き
『宮教大』行き
『成田山』行き
『青葉台』行き
2.【下車】「東北大 川内キャンパス・萩ホール前」
3.【徒歩】4分ぐらいで 会場です。

＜ 東北大学「杜のまなびや」事務局　田中 研究室 ＞
代表　田中 真理
住所：〒980-8576　仙台市 青葉区 川内27-1　田中 研究室
電話：022-795-3741　FAX：022-795-3741
Mail：tanaka@sed.tohoku.ac.jp

Fig. 1 パンフレット

も取り上げられた。また、読み書きが苦手な学習者の横には、運営スタッフが学習支援者として待機した。グループ討論の際には、スタッフが司会役を務めた。

(6) 各講座の時間は 2 時間とし、基本的に、a. 講師の話、b. 実技・実習、c. 休憩、d. 受講者同士の討論と発表、e. 講師によるまとめの時間、f. アンケート記入で構成した。実施ごとに映像・音声記録を残し、また、各講座終了後、運営スタッフで若干の省察時間を設けた。講師にもインタビュー調査を行った。

(7) 面接・調査の実施、および音声記録の文字化は、運営スタッフの院生によって行われた。

講座内容

〈1〉第 1 回　題目「からだをつかって考えよう」

実施日：平成 21 年 10 月 24 日

担当講師：谷口和也 准教授（カリキュラム論）

講座内容：環境問題は、個人や国など様々なレベルで取り組むべき課題があり、そのためには地球上の多様な人々の生活を理解する必要がある。そこで、本講座では、まずその多様性を取り上げ、“偏在”という側面から地球温暖化などの環境問題を取り上げた。

講座構成：地球上で生活する人々の多様性を理解するために、体験型のゲームを行った。その後、グループに分かれ、環境問題とその解決策について、ダイヤモンドランキングを用いた討論を行った。最後に担当講師による総評が行われた。

〈2〉第 2 回　題目「五感で学ぶわざの世界」

実施日：平成 21 年 11 月 28 日

担当講師：加藤守通 教授（外国教育史）

講座内容：外界を認識するための五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）は単なる肉体的な能力ではなく、それを鍛えることで、様々な“知”や“わざ”を獲得することができるのである。この感覚を鍛えることが、自らの生活世界をより豊かにすることにつながっていく。

講座構成：ウィスキーのブレンダーや将棋の棋士を例に挙げながら、感覚を鍛えることで得られる“わざ”の世界の奥深さについて説明を行い、ピアニストによる実演も行われた。感覚を鍛えることについて討論が行われた。

〈3〉第 3 回　題目「自分の生きざまを語る／他者の生きざまを聞く 2」

実施日：平成 21 年 12 月 13 日

講師：石井山竜平 准教授（成人教育論）

講座内容： 受講生自身が「受講生講師」となり、講義を計画・実施することで、自らを

表現するための工夫や方略について学んだ。表現された「自分の生きざま」を通して、他者との相互理解を深めることを目的とした。

講座構成：5 名の受講生が受講生講師となり、「楽しむ手帳入門」「ぼくが鉄道を好きなわけ」「自分の大事にしたいこと」「就労について―仕事に就くまでの流れを知ろう―」「療育手帳を持つことで変わったこと」などのテーマのもと講義を行い、その感想など自由討議を行った。

研究結果

研究結果については、当ネットワークセンター年報第 10 号記載の以下の論文に詳細を述べている。

①「オープンカレッジに継続参加した知的障害者の『学びへのイメージ』について―講座前後に行なわれてきた面接における回答から―」

野崎義和・滝吉美知香・杉山　章・笹原未来・川住隆一・田中真理

②「オープンカレッジにおける知的障害者の生涯学習支援の取り組み―“学び”に対する受講生の評価―」

鈴木恵太・杉山　章・野崎義和・滝吉美知香・岡野　智・横田晋務・鈴木　徹・斎藤維斗・新村享子・新谷千尋・川住隆一・田中真理

③「オープンカレッジにおける知的障害者の生涯学習支援に関する意義―家族のインタビューを通して―」

岡野　智・鈴木恵太・川住隆一・田中真理

文献

川住隆一・田中真理・細川 徹・菊池武剋・李 仁子（2007）知的障害者の生涯学習支援に関する研究―オープンカレッジの試みを通して―. 東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報，第 7 号，91-93.

川住隆一・田中真理・菊池武剋・市毛哲夫・細川 徹・杉山 章・鈴木恵太・中村保和・滝吉美知香・北 洋輔・野崎義和（2008）知的障害者の生涯学習支援に関する研究―オープンカレッジの試みを通して―. 東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報，第 8 号，101-105.

大内将基・杉山　章・廣澤満之・鈴木恵太・北　洋輔・田中真理・川住隆一（2007）知的障害者および学生におけるオープンカレッジの意義―東北大学オープンカレッジ「杜のまなびや」を通して―. 東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報，第 7 号，13-22.

鈴木恵太・大内将基・廣澤満之・笹原未来・中山奈央・半澤真理・中村保和・川住隆一（2007）オープンカレッジによる知的障害者の生涯学習支援に関する研究（1）―共同学習者からみた意義について―. 日本特殊教育学会第 45 回大会発表論文集，327.

杉山　章・佐藤彩子・北　洋輔・小島未生・楳本泰亮・田中真理（2007）オープンカレッジによる知的障害者の生涯学習支援に関する研究（2）―学習者からみた意義につい

て―. 日本特殊教育学会第 45 回大会発表論文集，328.

杉山　章・鈴木恵太・滝吉美知香・笹原未来・野崎義和・横田晋務・岡野　智・新谷千尋・新村享子・川住隆一（2009）知的障害者と大学生が共に学ぶオープンカレッジの意義―講師をした大学教員の気づきより―. 東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報，第 9 号，11-20.